



シロツメクサ（クローバー、オランダゲンゲ、白詰草）



学校法人中部大学 監事

太田明徳



マメ科シャジクソウ属、*Trifolium repens*、*Trifolium*は「三つの葉」で、*repens*の意味は「地を這う」。多年草、ヨーロッパ原産で弘化年間（1844-48）に渡来。英語名はwhite clover。ツメクサ（詰草）の名称は、干し草がオランダ渡来のガラス器の梱包充填材であったことによる。帰化して日本各地に群生。茎は地を這って長く延びる。葉は複葉で5～20cmの葉柄の先端に3枚の小葉がつく。小葉の上面には白っぽいハの字のような斑紋がある。春から初夏にかけて葉腋から長い花柄が伸び、先端に白または淡紅色の小さな蝶形花が毬状に密集する。春の遊びに花柄ご

と摘んで花輪（花冠）を作る。いわゆる「クローバー」(clover)はシャジクソウ属の総称であるが、主としてシロツメクサを言う。ローマ神話のヘラクレスの持つ3つのコブのついた棍棒clavaに葉が似ていることから、棍棒clubが転じてcloverとなったと言う(Wikipedia)。牧草、緑肥として利用される。「ウマゴヤシ」と呼ぶ例もあるようであるが、こちらはやはり江戸期に到来したマメ科の植物で別属である。図鑑で見ると黄色の蝶形花が4～8個だけで、だいぶ趣が違ふ。

シロツメクサの季題は春、花言葉は「幸運」、「私のことを思ってください」だそう、シロツメクサの花冠を想い人に贈る風習があるらしい。四つ葉のクローバーは、「幸運」の徴とされるが、小葉の原基が物理的に刺激を受けるか、遺伝的な変化によって生じる。四つ葉が高率で生ずる変異種が見出され、商業的に生産されているそうである。アイルランドでは、クローバーなど3枚の小葉を持つ植物「シャムロック」が国花である。アイルランドのケルト族はシャムロックを古くから神聖視して

いたので、5世紀に同地にキリスト教を広めた聖パトリックは、三位一体説の「神」、「キリスト」、「精霊」を説明するために利用したと言う。

ムラサキツメクサ(*Trifolium pratense*)はシロツメクサによく似ているが、赤紫色の花をつける。これも江戸時代に到来した帰化植物で、アカツメクサともいう。種小名は「牧草の」という意味だそうである。シロツメクサよりも草丈も花も少し大きいように思う。これらの「ツメクサ」の蝶形花の奥には蜜腺があり、良い蜜源植物である。

四つの葉も遺伝子変異で意のままに誰が知るや蜂と争う蜜の味

参考)

・「図説花と樹の大事典」木村陽二郎監修、柏書房1996

・「植物の世界」vol.5、p5-18、朝日新聞社1997

・Wikipedia、「シロツメクサ」、「ムラサキツメクサ」